

6月
定例会

いたやなぎ 町議会だより

 **第2号**
2014年8月8日発行
青森県板柳町議会

3人が一般質問 P2
研修・視察レポート P6
おらほの議員(広域議会) P8

表紙:クールアップル

町民の声を町政に

第10回定例会一般質問

第10回板柳町議会定例会が、6月5日から11日までの日程で開催され、9日に行われた「一般質問」に、3名の議員が登壇しました。

一般質問は、議員の日常活動と町民の声や議員自身の考え方をもとに町長や教育長などの方針を問うものです。板柳町議会では、1人60分の制限時間があります。議会だよりは、スペースの都合上、質問と答弁が要約してありますので、臨場感ある本会議場での傍聴をお待ちしています。

水害の復旧状況



長内 良蔵

質問 昨年9月の台風18号接近による大雨被害の復旧は、どの位進んだのか。また、洪水関係の事業を今後どのように取り組むのか。

答弁 (館岡町長) 被災園地の落集、運搬、処理、倒木の片付け作業は11月末で完了した。また、雪解け後に確認されたリンゴ園地や農道への流入土砂は排出し、整備は完了した。岩木川については小堤防の整備を国に強く要望しており、十川については県により堤防補修や、かさ上げ工事が完了し、脱木伐採や河道掘削も実施された。今後とも国や県に整備促進を要望する。

質問

果樹共済への加入状況は。

答弁 (石澤経済課長) 26年産水害も対応の果樹共済総合型加入者は三十人程度である。

質問 当町の災害時における備蓄はどのような状況なのか。

答弁 (鈴木総務課長) 主に水を備蓄、避難所には発電機を配置している。また津軽広域市町村圏で共同購入で備蓄体制を計画している。災害協定では町は六機関と締結しているほか、県内四十市町村と相互の連携協定も締結している。

小学校の統廃合

質問 板柳町立小学校適正規模適正配置等検討委員会報告が今年3月に町教育委員会にされたが、町の考えとその方向性は。

答弁 (館岡町長) 今後、町教育委員会からの正式な方針を受け、町は適正規模、適正配置の検討に入るので、現段階での方向性は申し上げられない。



質問 将来の板柳町の小学生の人数と青森県内の小中一貫校の取り組み事例は。

答弁 (中谷教育長) 平成29年度には約五七九名と見込んでいます。現在三戸学園の名称で呼んでいる三戸小学校、三戸中学校がそのようなスタイルをとっている。

質問 小学校統合後の利用は図書館や武道館にしてはどうか。

答弁 (館岡町長) 町の状況や町民の意向を聞いて議会と協議したい。

質問 町職員が町内に居住し、町内会活動等に参加することで、自治体職務につながる人脈形成をなす効果が得られると思うが、新採用者を含めた町職員全体の町内居住者を増やす考えは。

町職員の町内居住率向上

答弁 (館岡町長) 現在町外在住者は三八名で、その多くは医師、看護師などの医療職職員である。日頃より職員の町内会活動への参加は奨励しており、大いに実践してほしい。

質問 町長が職員に向けて板柳町に住んで一緒に働こうという発信をしてはどうか。

答弁 (館岡町長) 今後も職員に対し町内居住をお願いして、共に町づくりをしたい。



三戸 玲子

空き家などの対策

質問 今年4月庁内に空き家などの対策プロジェクトチームを立ち上げたが、これまでの取り組み状況や今後の課題、対策、また空き家対策関係の条例化の必要性は。

答弁 (館岡町長) 空き家などの活用も含めた総合的な対策を検討させている最中であり、検討結果の報告はまだ受けていな

い。条例化は国の法律整備を注視しながら検討したい。

質問 空き家になる一番の原因は人口減少と考える。特に板柳町では若い女性の転出が多いと感じるが、その数は。

答弁 (櫻庭町民環境課長) 二十歳から三四歳までの女性人口は、平成6年3月末では一四八八人、平成16年3月末では一三一五人、平成26年3月末では九三八人である。

質問 板柳町の若者世代の転出を抑制するには、魅力ある町づくりが必要不可欠である。また空き家対策にはリフォーム助成などを講じて、そして嫁不足、パートナー探しには、町部局の中に専門部局を設け専門員を配置するなども考えられる。さらには企業誘致も今まで以上に積極的に行い、若者の働く場を創出してはどうか。

答弁 (館岡町長) 企業誘致は厳しい状況の中で町基幹産業である農業と連携した魅力ある農業農村づくりで、今まで都会で生活していた方々を呼び込む。そのため安価な費用で取得できる住居も

必要となるので、空き家の活用も検討したい。また婚活事業も大いに進めたい。

特色ある公園

質問 時代に即応した児童公園、高齢者や障害者にやさしい公園、防災機能を果たせる公園など、今までの公園機能では対応できなくなっているのが現状である。今後の公園整備の考えは。

答弁 (館岡町長) 町が管理する公園は、都市公園七カ所、都市緑地二カ所、農村公園三カ所、アップルプラザ一カ所である。そ



の内の中央アップルモールは災害時の避難路の機能を有する緑道として整備し、ウォークのコースや各種イベント会場になり町内外の方々の憩いの場である。これ以外の公園については、今後研究したい。

質問 ふるさとセンターの入り込み客数が減少している。子供たちを遊ばせる現在のサーキットエリアだけなら魅力がなくなっているのでは、本館向かいのリンゴ園地を町で購入して整備をしてはどうか。

答弁 (館岡町長) 何が良いか様々検討したい。

児童虐待

質問 二〇一三年度青森県内六児童相談所に対応した児童虐待の件数は八二二件と報告されている。板柳町の報告件数は。

答弁 (館岡町長) 町への情報、相待に至った事例はない。



齊藤 直飛人

町発展につながる

取り組み

質問 人生の大きな節目に二十歳
の成人式、第二の人生を祝
う六十歳の還暦があるが、例えば
その中間の四十歳、人生二回目の
成人式を板柳町で定め、町を離れ
た方々が故郷板柳町に帰ってきて
交流する仕組みをつくることで、
相互に刺激を受けて町発展につな
がるのでは。

質問 人生の大きな節目に二十歳
の成人式、第二の人生を祝
う六十歳の還暦があるが、例えば
その中間の四十歳、人生二回目の
成人式を板柳町で定め、町を離れ
た方々が故郷板柳町に帰ってきて
交流する仕組みをつくることで、
相互に刺激を受けて町発展につな
がるのでは。

答弁 (館岡町長) 故郷へのおも
いや人とのつながりがより
一層醸成されるよう、節目に故郷
板柳に回帰できるような仕組みを
考え取り組みたい。

質問 人と人とのつながりがより
親交を深め、しいては町発
展に良い影響を与えるのでは。

答弁 (館岡町長) 町発展につな
がる人と人とのつながりを大
事にした取り組みを今後考えたい。

若者の定住対策

質問 板柳町の将来を担う若者の
多くが就職を都会に求め転
出している。町の人口減少を防ぐ
定住対策として官民一体となった
取り組みが今まで以上に必要と考
えるが。

答弁 (館岡町長) これまでの雇用
確保の施策を継続しながら、
子育てや生活環境の整備、さら
に未来を担う人づくりなど、より
一層充実させるとともに、あら
ゆる分野において官民連携して取
組みたい。

知育・徳育・体育

質問 現在、学校内で日常的に行
われている知育・徳育・体
育は。今後、児童生徒が生きる力
を育むために必要とされる知育・
徳育・体育とは何か。また、私は
知育・徳育・体育の調和のとれた

質問 現在、学校内で日常的に行
われている知育・徳育・体
育は。今後、児童生徒が生きる力
を育むために必要とされる知育・
徳育・体育とは何か。また、私は
知育・徳育・体育の調和のとれた

人間形成に向けて横のつながりを
意識した学校間交流が有効な一つ
と考えるが。

答弁 (中谷教育長) 学校の教職
員は、児童生徒が学校で過
ごす時間内での指導はもちろんの
こと、朝歩いての登校の励行に始
まり、帰宅してからの家庭学習の
励行など生活の隅々までにわたっ
て、知育・徳育・体育バランスの
とれた発達を願いながら指導して
いる。これからの児童生徒には、
人と関わる力、社会とつながる力、
自己肯定感や自己有用感に気づく
力、高める力、課題を乗り越える
力、やり抜く力、そして多様なコ
ミュニケーション能力などが重要
になる。今後学校間交流は大変必
要と考える。

質問 基本的な生活習慣の中でも
日常的な運動のあり方とし
て、歩いて登下校することが大切
では。

答弁 (中谷教育長) 大切と考え
るので教育委員会でも保護
者に呼びかけている。

質問 基本的な生活習慣の中でも
日常的な運動のあり方とし
て、歩いて登下校することが大切
では。

答弁 (中谷教育長) 大切と考え
るので教育委員会でも保護
者に呼びかけている。



スポーツ振興

質問 二〇二〇年東京オリンピッ
クを控え、スポーツ普及の
機運をさらに高める良い機会であ
る。町のスポーツ振興を図る考え
は。

答弁 (館岡町長) 町体育協会や
りんごの里スポーツクラブ
などの各種スポーツ団体と連携を
図り、内容をさらに充実させ、盛
り上げながら有望選手を輩出でき
る環境づくりに努めたい。

議会を傍聴しませんか

次の定例会は9月です。

<議会日程のお知らせ(予定)>

月日	内 容	
9月1日(月)	本会議	委員会報告、提案理由の説明・報告、 監査報告、決算特別委員会の設置
9月5日(金)	本会議	一般質問
9月8日(月)	常任委員会	総務産業厚生・福祉建設文教
9月9日(火)	特別委員会	決算特別委員会
9月10日(水)	特別委員会	決算特別委員会
9月11日(木)	本会議	委員長報告、質疑・討論・採決

※開催時間はいずれも午前10時です。

一目でわかる審議結果

第10回定例会6月提出議案

議案	結果
専決処分の承認（承認第1号～第6号）	全員承認
板柳町固定資産評価審査委員会委員の選任（奈良喜久郎氏・葛西俊一氏）	全員可決
板柳町いじめ防止対策委員会設置条例の制定	全員可決
板柳町手数料徴収条例の一部改正	全員可決
板柳町一般会計補正予算（第2号）	全員可決
国民健康保険板柳中央病院事業会計補正予算（第1号）	全員可決
【報告】平成25年度板柳町一般会計繰越明許費繰越計算書	
【板柳町農業委員会委員の推薦】北畠弘美氏・館岡精一氏・田中達男氏3名を推薦	

議会の動き（4月～6月）

開催日	会議等名	出席議員
【4月】		
4月7日	町例月検査（監査）	安田(久)議員
4月15日	都市計画審議会（辞令交付・組織会）	議員
4月16日	議会運営委員会（5・6月会議等）	北畠委員長、委員
〃	議員全員協議会（町諸案件等）	安田議長、議員
〃	議会基本条例制定調査特別委員会	成田委員長、委員
〃	町議会だより編集特別委員会	葛西委員長、委員
4月21日	国民健康保険運営協議会（辞令交付・組織会）	議員
4月24日	町議会だより編集特別委員会	葛西委員長、委員
【5月】		
5月7日	町例月検査（監査）	安田(久)議員
〃	議員全員協議会（町諸案件等）	安田議長、議員
5月26日	議員全員協議会及び議案説明会（町諸案件等）	安田議長、議員
〃	議会基本条例制定調査特別委員会	成田委員長、委員
5月27～28日	全国議長・副議長研修会	安田議長、成田副議長
5月28日	福祉建設文教常任委員会（管内小中学校訪問）	佐藤委員長、委員
5月30日	議会運営委員会（定例会案件）	北畠委員長、委員
【6月】		
6月5日	本会議（定例会日程、町長の提案理由等）	安田議長、議員
〃	議会基本条例制定調査特別委員会	成田委員長、委員
〃	町議会だより編集特別委員会	葛西委員長、委員
6月6日	町例月検査（監査）	安田(久)議員
6月9日	本会議（一般質問・3人）	安田議長、議員
6月10日	総務産業厚生常任委員会（所管事務調査）	長内委員長、委員
〃	福祉建設文教常任委員会（所管事務調査）	佐藤委員長、委員
6月11日	本会議（諸般の報告、採決、閉会）	安田議長、議員
〃	議会基本条例制定調査特別委員会	成田委員長、委員
6月16日	議員全員協議会	安田議長、議員
6月19日	監査（百沢山林及び分収造林の現地確認）	安田(久)議員
6月27日	県町村議会議長会臨時総会	安田議長

研修・視察 レポート



議会基本条例制定調査特別委員会

● 研修視察期間

平成26年7月1日(火)

～7月3日(木)まで

● 研修目的と視察先

議会基本条例と議会改革について

・蔵王町議会(宮城県)

・山辺町議会(山形県)

● 参加議員

成田肇、佐藤洋治、安田弘
安田久五郎、北畠弘美、三
戸玲子、田中達男、葛西清
人、長内良蔵、今浩一、齊藤
直飛人 (計11名)

議会基本条例とは、議会の憲法のようなもので、公平・公正・透明な議会運営や開かれた議会づくりを推進し、議会の役割を明らかにし、町民の負託にこたえていくものです。

近年、議会改革の取り組みや、議会基本条例を制定する地方議会が多くなっています。当町議会でも議会基本条例制定にむけて今年3月に特別委員会を設置しました。4月から月一回のペーパースで会議をすすめる、このたび東北地方の先進地を二箇所研修視察しました。

宮城県蔵王町・山形県山辺町



宮城県蔵王町議会

まずは、議員定数15名の蔵王町議会です。平成22年2月に、宮城県内三番目となる議会基本条例を制定しています。一般質問では一問一答方式を導入するなど議会改革を進めています。さらに、住民参加の議会、議会の活性化を図るため、委員会等の原則公開や議会報告会など実施しています。



山形県山辺町議会

二元代表制によって運営される町政にあつて、最高議決機関としての「議会の姿が見えない」という町民の声を受け、議会報告会など議会活性化に取り組んでいます。

両議会の議会基本条例は議員として当然の義務のような条例ではあるが、あえて明文化しております。

今後、当町議会でのどのような取り組みをしたらよいのか、検討課題がたくさんあると感じました。

(委員長 成田 肇)



講師：東京大学名誉教授 大森彌氏

県下町村議会 議員研修会

7月10日、青森市民ホールにおいて、開催された県下町村議会議員研修会に、議員七名が参加しました。

「道州制」の研修会に参加し、「都・府・県」並びに「市・町・村」それぞれの立場により、賛否が分かれるこの問題、町議員の一人として、「我が町にとって良き方向」を考える上で、貴重な研修会でありました。

(議員 今 浩一)

福祉建設文教常任委員会

学校訪問

●実施日

平成26年5月28日(水)

●訪問した議員

佐藤洋治、今浩一、館岡精一、田中達男、葛西清人、齊藤直飛人

常任委員六名と中谷教育長、阿部学務課長、小松原議会事務局長の九名で常任管内小中学校を訪問させていただきました。

- 板柳北小学校
午前8時10分～
- 板柳南小学校
午前9時5分～
- 板柳中学校
午前10時～
- 板柳東小学校
午前10時55分～
- 小阿弥小学校
午前11時50分～

それぞれの学校で、45分間ずつ滞在して、校長先生からは学校経営について、教頭先生からは学校の教育内容などについて説明をうけました。さらには、児童生徒さん方の



小阿弥小学校にて給食

授業の様子や学校施設の状況を拝見しました。最後の訪問先の小阿弥小学校では、蝦名校長先生と一緒に給食を試食しました。
児童生徒の皆さん元気なあいさつありがとうございます。給食(ちゃんぽんめん)大変おいしかったです。
板柳町の将来をになう児童生徒のみなさん、学校生活を楽しんでください。

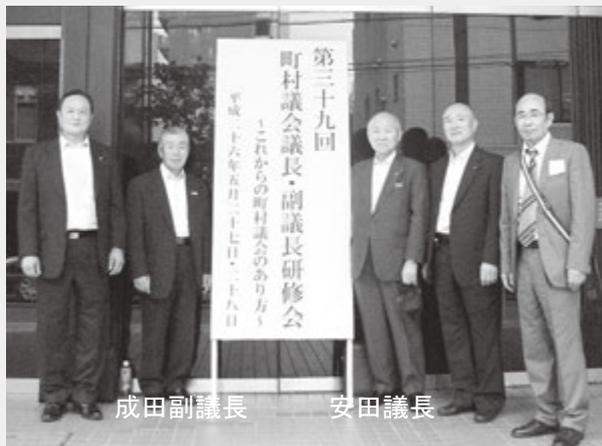
(委員長 佐藤 洋治)

全国町村議会

議長・副議長研修会

5月27日、28日の2日間、東京メルパルクホールにおいて開催された、第39回全国町村議会議長・副議長研修会に参加しました。初日は江藤俊昭氏(山梨学院大学法学部教授)の基調講演「住民と歩む地方議会」や「これからの町村議会のあり方」と題したシンポジウム、二日目は結城登美雄氏(民俗研究家)、後藤謙次氏(ジャーナリスト)の講義を受け、大変有意義な研修でありました。

(安田弘議長・成田肇副議長)



成田副議長

安田議長

議員県内視察研修

(三戸町・小中一貫教育)

●研修日

平成26年7月16日(水)

●参加議員

安田弘、成田肇、安田久五郎、三戸玲子、佐藤洋治、田中達男、葛西清人、長内良蔵、今浩一

議員九名と中谷教育長、阿部学務課長、議会事務局小枝主任主査の十二名で県内で唯一小中一貫教育を実施している三戸町へ、視察研修に行ってきました。



小中一貫三戸学園校舎を視察

我が町同様、学校が老朽化し耐震性も悪く、一日も早く建設が望まれる状況で、議員全員が建設に賛成し、国の基準より町予算を多く投入したそうです。改修・新築された建物は立派で広々とした廊下が印象的でした。この環境の中では町の宝である児童・生徒が立派に育つこと間違いなしと思いい、帰路につきました。

(議員 三戸 玲子)

おらほの議員（広域議会）

西北五広域福祉 事務組合議会

（副議長 三戸 玲子）

この組合は、五所川原市・つがる市・深浦町・鯉ヶ沢町・中泊町・鶴田町・板柳町の7市町で組織し、共同処理する事務は、障害児入所施設の設置及び管理運営に関する事務などです。



弘前地区環境整備 事務組合議会

（議員 成田 肇）

この組合は、弘前市・平川市・大鰐町・藤崎町・板柳町・西目屋村の6市町村で組織し、共同処理する事務は、し尿処理施設、ごみ処理施設の設置及び管理の事務です。



津軽広域連合議会

（議会運営委員 長内 良蔵）

この広域連合は、弘前市・黒石市・平川市・藤崎町・板柳町・大鰐町・田舎館村・西目屋村の8市町村で組織し、介護認定及び障害支援区分判定審査・各ソフト事業など様々な事務事業を行います。



弘前地区消防 事務組合議会

（議会運営委員 今 浩一）

この組合は、弘前市・黒石市・平川市・藤崎町・板柳町・大鰐町・田舎館村・西目屋村の8市町村で組織し、共同処理する事務は、消防に関する事務など（消防団に関する事務を除く。）です。



以上、広域議会の議員として、他市町村議員と共に議会活動を行っています。

編集後記

議会だよりの編集校正を繰り返す中で、今日も一日、楽しく無事に過ごせた事に感謝の気持ち湧いて来ることもあります。

人生経験を重ねるにつれ、昨今、反省する事も多くなり心の角がとれ、丸みが付いて来たのかと苦笑いする体育会系の私。

硬く真面目な中にも、ユーモアをとり入れた表現で、できるだけ分かりやすく町民にお届けできる事は至福の極みと感じます。



委員長 葛西清人

【発行責任者】

議長 長安 田 弘

※第3号発行予定は11月11日頃です。
議会だよりへのご意見・ご感想をお聞かせください。